

BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。  
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら



## Web3.0とは？ メタバースやNFTとの関係などを徹底解説

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/research-analysis/what-is-web-3-0-thorough-explanation-of-its-relationship-to-the-metaverse-and-nft-etc>

NFT、ブロックチェーン、分散化に関連する文章を読んでいると、Web3.0という曖昧な言葉を目にすることが欠かせません。Web3.0とはいったい何でしょうか？ [メタバース](#)やNFTとの関係は？ なぜそんなに人気があるのでしょうか？

今回は、Web3.0について詳しく解説していきますので、ぜひご一読ください。



### Web3.0とは？

---

Web 3.0は、ブロックチェーン、分散化、メタバース、仮想通貨などと並んで語られることが多く、2022年に最も話題になるテクノロジーキーワードの一つとなっています。

Web3.0の定義は様々に解釈されています。Wikipediaに正確な定義はないですが、要するに**Web3.0**とは、メタバースを牽引するインフラ技術となるブロックチェーンをベースとした分散型ネットワークのことです。

Web 3.0の世界では、所有権と制御が分散化され、構築者とユーザーの両方がNFTなどのトークンを保有し、特定のネットワークサービスにアクセスできるようになります。

Web 3.0は、Web 2.0 や Web 1.0 の欠点、すなわち中央集権的な主体のパワーとコントロールの蓄積によって引き起こされる信頼、プライバシー、透明性の問題に対する解決策の一つです。分散型ノードのブロックチェーンネットワークでは、取引を暗号的に検証することができるため、単一の中央集権的なエンティティに信頼源として依存する必要はなく、自己実行型のインテリジェントコントラクトでは、第三者は不要となります。



[Google Playで手に入れよう](#)      [App Storeからダウンロード](#)  
[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

## Web3.0の歴史的展開

Web3.0は、最近になって登場した新しい概念ではなく、その名前から、いくつかの前の時代を経て発展してきたことが容易に想像できます。それぞれWeb1.0、Web2.0が先行しています。

3つの詳細を説明する前に、各ウェブ世代の特徴を下の表で見てください。

Web	コントロール	インタラクション	メディア	特徴	デメリット
Web1.0	分散型	Read	静的ページ	ユーザーによるウェブページの一方向の閲覧	インタラクションの欠如
Web2.0	集中型	Read/Write	Facebook、コミュニティ、ブログなど	ユーザーは見る側と作る側の両方	リソースが数社に集中、ユーザーのプライバシー漏洩の危険性

Web3.0 分散型 Read/Write & Own メタバース、DeFi、NFT ネットワークの自律性、仮想ネットワーク生態系の構築 技術的に困難であり、議論がある

## Web1.0 (1990年～2005年)

---

Web1.0とは、World Wide Webが普及し始めたころのインターネットの第一世代を指します。

参加者の多くはコンテンツの消費者であり、クリエイターは単にウェブサイトの開発者です。テキストベースのウェブサイトはhtmlが主流で、画像や動画のコンテンツは少なく、コミュニケーションはメールが主体でした。

メッセージの送り手と受け手の双方向のコミュニケーションはほとんど不可能で、サイト間の交流もほとんどありませんでした。

## Web2.0 (2005年～2020年)

---

Web2.0は、メッセージの送り手と受け手の双方向コミュニケーションを可能にし、Web1.0に代わる現代のWebの形として注目されています。

Web2.0では、誰もが簡単にコミュニケーターになることができ、画像や映像コンテンツの共有がより簡単になります。

しかし、Web2.0は主に企業が提供する独立した中央集権型のサービスであるため、Google、Apple、Amazon、Meta (Facebook) など一部の企業大手に価値が集中しています。情報が一箇所に集中することで、サイバー攻撃や大企業による個人情報のプライバシーの独占など、セキュリティ上のリスクが発生します。

同時に、作成が容易になったことで、アプリ提供者の目的が利益へとシフトしています。より多くの広告収入を得るためにクリック数を追求することが、現在のネット企業の主な収益モデルになっています。

## Web3.0 (2020年～)

---

Web 3.0は、上記のWeb 2.0の中央集権的な問題を解決することを約束する分散型システムです。データそのものを、組織や個人に依存するのではなく、オープンな数学的アルゴリズムやプロトコルに依存させようとするものです。Web3.0上に構築されたアプリケーションはDApps（Decentralised Applications）と呼ばれ、Webのオープン性と分散型のセキュリティが強調されている。

体験という点では、Web3.0はWeb2.0とあまり変わらないかもしれません。主な違いは、ユーザーまたはクリエイターが投稿したコンテンツの所有権を保持し、一定の報酬を受け取ることです。プライバシーの面では、ユーザーはデータが何に使われるかを正確に把握し、意思決定権を持つことができます。

## Web3.0とメタバース、NFTとの関連は？

---

メタバースとは、本来、インターネットの未来の姿であり、ユーザー同士がコミュニケーションできる仮想現実の3D空間で構成されています。数か月前、FacebookがMetaと名前を変えたのはこのためです。

Web 3.0は、ブロックチェーンシステムとオープンスタンダードの利用を促進し、Web 3.0の分散型インターフェースを通じて、個人のコミュニティへのアクセスやコンテンツの検閲に関する従来の制限を打破するのに役立っています。

NFTは、バーチャルリアリティのオブジェクトを含む商取引を促進し、従来のゲートキーパーは、メタバースでアクセスできるもの、できないものを決めることができなくなります。



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

## なぜWeb3.0が人気？

---

Web 3.0は、仮想通貨コミュニティで大々的に宣伝されただけでなく、Web 3.0がサービスを中央集権型から分散型に変えることができるため、最近非常に人気があります。

この分散化により、ユーザーのプライバシーを効果的に保護し、Web2.0の問題を解決することができます。Web3ブロックチェーンを利用したサービスでは、登録用のIDやパスワードは必要ありません。誰もがウォレットアドレス（アルファベットの数字の羅列）を持っており、毎回ウォレットIDでログインすることができます。匿名性が保証され、プライバシーが保護され、個人情報が漏れることはありません。つまり、Web3.0時代には、自分で自分のデータを管理できるようになるのです。

同時に、Web3.0は国や企業の規制を受けず、サービスも国境にとらわれず、さらに追加コストなしで企業と直接取引することも可能になります。これらの利点から、多くの人がWeb 3.0に大きな熱意をもって注目し、自社の製品に活用しています。

---

Web3.0や仮想通貨相場などに関してもっと知りたい方は、[BTCCのホームページ](#)をご参考ください。

[BTCC公式サイト](#)

BTCC取引所は、イギリスに設立された暗号資産デリバティブ取引所です。「信頼ができる暗号資産取引を誰もが簡単に利用できる」ことをモットーに、12年以上サービスを提供しています。ロンドンに本部を置くBTCCは現在日本での登録者数が徐々に増加しており、またSNSを通じて日本限定のキャンペーンも度々開催されています。

[BTCC口座開設はこちら](#)

【あわせて読みたい】

[Web3.0とは？ブロックチェーン技術による次世代インターネット](#)

[話題の暴走東京 NFTとは？日本を代表するNFTプロジェクト](#)

[【初心者向け】NFTとは？その買い方から保管方法まで分かりやすく解説！](#)

[注目の「ソラナ基盤NFTマーケットプレイス」3選を紹介！](#)

[NFT転売のやり方は？初心者でもわかりやすいNFTの稼ぎ方](#)